

## R6 年度 4 月 ばら組ドキュメンテーション『ままごと遊びの発展』

A ちゃんが、哺乳瓶のおもちゃを持ち、  
自分でミルクを飲む真似をしたり、  
保育士がミルクを飲む真似をしているところを見て笑ったりしていた。



A ちゃんに保育士が  
「メルちゃんもミルクが欲しいみたいだよ」と話すと  
A ちゃんはメルちゃん人形をヒザに乗せ、  
まるで大人が赤ちゃんの世話をするように、ミルクをあげる真似をしていた。

### ☆考察☆

1 歳児頃になると、身近な人が日頃行っていることを、見て真似する力が育ってくる。  
A ちゃんも、家や保育園で赤ちゃんがミルクを飲んでいるところを何回も見ているため、  
自然とこのような遊び方が身についたのだと思う。

保育士も、子どもの遊び方の発展にともない、子どもの想像力が広がるような声かけや  
（「〇〇ちゃん、おなかが空いているみたいだよ、ごはんが欲しいのかな」など）、  
子どもの遊びを妨げないように見守る姿勢を常に心がけている。